

令和元年度 第2回 倫理審査委員会の記概要

開催日時：令和元年7月23日(火) 16:30～17:12

開催場所：独立行政法人国立病院機構菊池病院 会議室

出席委員名：渡邊院長、幸薬剂科長、大石事務部長、竹之内看護部長、飯田外部委員

審議事項 申請番号 2558

【課題名】 重症心身障害者病棟における職員の座位保持援助に対する経験と認識の現状

【申請者】 ウイング7病棟 辻 真奈弥 看護師

【概要】 病棟において、2017年より作業療法士1名、理学療法士1名によるリハビリが導入された。現在、優先順位の高い一部の患者を対象に、歩行訓練などのリハビリが行われている段階で、生活場面の介入までは実施されていない。しかし、他職種連携が必要な患者のケアでのOT・PTの専門性と視点の違い、患者の力を引き出していく介入を通して姿勢の重要性を感じた。そのため、シーティングへ着目した。「姿勢の傾きが少なくなってきた」などの「姿勢改善」「褥瘡の減少」「シーティングにより食事が自力摂取できるようになった」などの食事動作の改善を挙げていた。本研究では、スタッフのシーティング実施経験と知識、意識の現状を調査したい。

対象者より得た情報を研究目的で分析するものであり、個人情報の保護などについて十分に倫理的配慮がなされ、公正かつ厳格に行われる必要がある。

【判定】 申請必要なし不可

審議事項 申請番号 2559

【課題名】 精神科単科A病院で起こった投薬エラーの検証

【申請者】 ウイング6病棟 青木 大輔 看護師

【概要】 ヒヤリハットの対象となった入院患者と当事者であるスタッフの情報を研究目的で分析するもの。ヒヤリハットに記載されている情報は匿名化されているが、個人情報の保護などについて十分に倫理配慮がなされ公正かつ厳格に行われる必要がある。予約のヒヤリハットに関する要因と明らかにし改善策を検討することで、誤薬をゼロにする事を目指した看護師の人材育成に取り組むことの一助けにしたい。匿名化された平成29年度のヒヤリハットを使用するため、同意を得ることは考えていない。

【判定】 承認

審議事項 ー

【課題名】 看護拒否のある重度アルツハイマー型老年期認知症へ行った音楽的介入の効果

【申請者】 ウイング1病棟 坂本 真一郎 看護師

【概要】 一般精神科病棟でありながら、近年の高齢化により入院患者の24%が認知症高齢者である。重度アルツハイマー型老年期認知症で、親族への暴力行為や反社会的行動、他施設で他患者に対しての暴力行為があり、当院個室で隔離対応となっている。言語理解が乏しく看護介入時の拒否や抵抗が著しい。介入の糸口として、音楽に着目した。音楽を取り入れることで、介護を受け入れ、QOLの維持と向上へ役立つのではないかと考える。介入する時間を予め設定し、その前後で音楽を使用して音楽的介入を行った期間と行っていない期間で、介護介入時の患者の気分やBPSDに変化があるのか、評価スケールを用いて明らかにしたい。

家族から聞き取り調査で得た、本人の好む「演歌」や「民謡」とし、月曜日から金曜日までの10時と16時に実施。介入15分前から介入15分後まで流す。当院研究対象者には、研究の目的や方法と共に研究への参加は自由であり、参加の拒否や途中辞退により対象者は一切の不利益を被らないこと、また匿名性を確保し、個人情報法の規定を遵守するためにすべてのデータを厳重に管理し、データは病棟内のパソコンでのみ管理し病棟外に持ち出すことはない。研究対象者選定についても、主治医と相談のもと対象を決定し、研究途中で精神状態の悪化が懸念される場合には、主治医と連携してケア・フォローアップを行う。研究の終了時に破棄することを文書及び口頭での説明したうえで、家族に協力り同意書に署名捺印を得る。

【判定】 見送り